

北海之光

10月号 北海道教区報

わたしがここにおります

わたしを遣わしてください

イザヤ書6章8節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

暗闇行くときには

Ⅱ 胆振東部地震をめぐって Ⅱ

北海道教区事務所主事
札幌聖ミカエル教会牧師
新札幌聖ニコラス教会管理牧師

司祭 コルベ 下 澤 昌

暗闇行くときには

主イエスが示された

輝く星をもとめ

光に顔むけよう

光は闇を照らし

昼は夜をつつむ

とりまく影をぬぐいて

光を仰ぎ見よう

このところすっかり教区の歌となった聖歌四七六番です。特に北海道教区が暗闇に包まれていた訳ではないのですが、

教区礼拝や大きな集まりで、皆が声を合わせ、思いを一つにして、信仰の勇気をいただいた曲です。

九月六日に発生した北海道胆振東部地震によって、私はさらにこの曲を身近に感じています。厚真町、むかわ町、安平町を中心に四一名が亡くなられ、三週間が経とうとする現在も、六百人もの方々が

避難生活を余儀なくされています。地震後、北海道全域が

ほぼ二日間、暗闇に包まれました。日本の災害史上極めて

まれなブラックアウトという現象でした。大都市札幌の電

源は回復しましたが、被災地では今も昼間でも「暗闇」が

支配しているのです。

被害状況が明らかになるにつれ、教会がどう対応すべき

か、頭を悩ませました。小さな町が広大な地域に点在して

いること、教会の分布もまた

しかりです。被災地が多くの信徒が住む札幌から八〇キロも離れていること、支援活動の拠点となり得る苦小牧聖ルカ教会も車で数十分、ボラン

ティアを受け入れるとしても物理的に小規模にならざるを得ないので。そうか、自分たちはこういう土地に住んで

いるのかという現実が突きつけられた気がします。

今回大きな被害を受けた地域のほとんどが漁業や農業の第一次産業地帯です。海では

ししゃもが獲れ、陸では稲作

や酪農、メロン栽培などの土

地です。いうまでもなく、北

海道を支えてきた重要な産業

です。住む家を失った方々の

悲嘆とともに、後継者不足に

悩む一次産業従事者に追い打

ちをかけるような悲劇に言葉

を失います。多くが都市部に

住む私たち教会関係者にとつ

て、今まで視野に入っていな

かった人びとの存在が浮かび

上がりました。

そんな中、苦小牧では吉野司祭が中心となって聖公会ボ

ランティアセンターを開設す

ることができました。決して

大規模な支援拠点ではありません。

そして支援期間もわず

かです。これが今の北海道教

区の現実です。しかし、有り

難いことは、すぐに遠く本州

からも参加の申し出をいただ

いたことです。痛みを分かち

合おうとして下さる方々が確

かにおられるということも、

私たちが知らされたもう一つの現実でした。

忘れられない光景がありま

す。札幌市は一九五万人が住

む日本で四番目に大きな都市

です。地震直後、デマが流れ、

ガソリンスタンドには数キロ

の列ができ、スーパーでは買

い占めが始まりました。すべ

ての交差点で信号が止まり、

道を譲り合うこともあれば、

譲ることが出来ずに多くの接

触事故も起きました。

そういう事象に疲れ果て、

夜、不安な気持ちで空を見上

げると、普段は街灯やマンシヨ

ンの照明で隠されていた満天の星が現れました。人が造り

出した利器があっけなく機能

不全になった時、「わたしはこ

こにいる」という不動のメッ

セージが星になって現れたの

です。人間のはかなさにそっ

と寄り添うような神さまの手

がそこに伸びていたように思

われました。

細くて長い復興の道のりが

始まったばかりです。でも私

たちは安心して、前に進みた

いと思います。

胆振東部地震報

北海道教区から発信された
震災関連のニュースを抜粋

北海の光編集委員会において
再編集して、お届けいたします。
なお、「福音と私」の今
月号は、お休みいたします。

九月八日 第一報より

このたびの震災では胆振地
方を中心に多くの犠牲者、被
災者がおられ、神さまの平安
と慰めを心よりお祈りいたし
ます。

教区事務所、並びに事務所
主事宅は昨夜七日夜まで電源
が復旧せず、ご連絡が遅く
なっていました。その間、
自主的にいくつかの教会から
被害状況のご報告をいただい
ております。

今のところ、信者さん、教
役者に怪我などの報告はな
く、施設関係もとくに報告は
いただいておりません。

教会の建物としては、室蘭
聖マタイ教会が牧師館の窓に
軽微な損傷、苫小牧聖ルカ教
会の外壁一部が剥がれる被害

が出ています。(※外壁工事、
一〇月初旬に終了)

深刻なのは新札幌聖ニコラ
ス教会で、コンクリートの礼
拝堂部分は目視では問題はあ
りませんが、牧師館部分は壁
の数箇所に亀裂が生じ、床に
かなりの傾斜が発生していま
す。明日、教会委員会で協議
しますが、牧師館での居住は
安全面からかなり厳しい状況
です。(※一〇月一日現在・
専門業者による補修作業の大
部分を終了)

来週、なるべく早いうちに
今後の教区としての取り組み
を協議します。また、苫小牧
の吉野司祭が被害の大きな地
域を回って情報収集して下
さっています。ただ、むかわ、
穂別、厚真地区は道路状況が
悪く、余震も多いことから、
現状では視察範囲も限られる
ことと思います。

九月一三日 第二報より

北海道胆振東部地震から一
週間が経過しました。四〇名
以上の方が亡くなられ、今も

千五百名ほどの方々が避難生
活を余儀なくされています。
北海道は秋を迎え、急速に朝
晩の冷え込みが強くなるた
め、避難者の健康が心配され
ます。しかし、震源地に近い
避難所には未だに停電、断水
の箇所が多く、一刻も早い復
旧が望まれます。また、八〇
キロほど離れた札幌市内でも
多くの住宅に被害が生じ、幹
線道路の陥没や工場の被災、
物流の停滞による食料品不足
の状態が続いています。

北海道教区は苫小牧聖ルカ
教会に「聖公会ボランティア
センター」を設置、ボラン
ティアの受け入れを開始する
ことにしました。しかしなが
ら、物理的、人的な制約もあ
り、最小限の規模となります
ことをご了承ください。

九月二八日 第三報より

北海道教区は九月一九日よ
り苫小牧聖ルカ教会に「聖公
会ボランティアセンター」を
設置いたしました。一〇月三

日までの限定的な活動です
が、神戸、東北、横浜、京都
など複数の教区から、信徒、
教役者の方々の参加、または

参加の申し込みをいただき、
感謝申し上げます。このたび
の報告では、センターの責任
者である吉野司祭のレポート
をお送りします。

吉野暁生司祭レポート抜粋
ボランティアセンターが開
所した当初は利用者がなかつ
たので、吉野が作業に参加し
ました。九月一九、二〇日は
むかわ町に、九月二一、二四
日は安平町です。二日より、
ボランティアの参加がありま
した。

主な作業は災害ゴミの回収
です。倒れたタンスや本棚、
割れた食器や電球など回収し
て災害ゴミとして一時集積所
に持って行きます。場合に
よっては搬出も行います。報
道では「日常が戻ってきてい
る」と言いますが、全体的に
少しずつ戻ってきているとい
うよりは、「戻れた人」がほ
ちぼち出てきたということな
のだろうと思います。「戻れ
ない」人にとっては、少しも
「日常」ではありません。

避難所では、子どもの泣き
声をめぐって車中泊やテント
で生活している人もおられま

す。そのような方々に暖かい
手が差し伸べられることを
願っています。…

一〇月一日 第四報より

九月一九日より苫小牧聖ル
カ教会にボランティアセン
ターが開設され、実質的には
二日から活動を開始いたし
ました。当初、一〇月三日ま
での活動を予定してありま
したが、被害の大きな安平町、
むかわ町、厚真町の三町が、
一〇月より平日のボランティ
ア受け入れを中止、土日、祝
日のみとの決定をしたため、
ボランティアセンターは九月
三〇日の主日聖餐式をもって
期間を終了することとなりま
した。それまでの間、地元の
北海道をはじめ神戸、東北、
横浜など遠方の教区から、八
名が作業に加わってください
ました。また全国から、セン
ターの働きのためにお祈り、
ご支援をいただきましたこと
を重ねてお礼申し上げます。
今後、また状況が変わり、新
たな活動が展開可能となった
場合はお知らせいたします。

感謝 北海の光献金(敬称略)

常置委員会報告
第一一回 九月二日

《協議事項》

一、ミランダ・シユラーズ氏を迎える行事の件
・来年六月に仙台で開催される「原発のない世界を求め

国際協議会」に講師として来日する同氏を、北海道にも迎えてプログラムを実施する方向で宣教活動推進部が中心となり、計画を進めることとした。
二、来年度の予算の件
・支出を抑制した予算の内容

を確認した。
三、北海道胆振東部地震に関する件
・教区関係の被災者・被災状況について確認した。
・苫小牧ボランティアセンターを開設し、被災地支援活動を行うこととした。

津田 弘子(柏市)
植松 頌(東京都)



主教室より

九月六日に起こった北海道胆振東部地震では、多くの方々からお祈り、お見舞いをいただき、また、各地からボランティアも駆けつけてくださいましたことに、心から感謝いたします。

今回の地震のような想定外の災害が起こるたびに、どうしてこんなことが起こるのか、穏やかに生きている人たちがどうして理不尽に命を絶たれるのか…と、やりきれない思いになります。親を思う気持ち、子を思う気持ち、それらが分かるだけに、愛する家族を亡くした方々の、言葉にはならない絶望のような心の闇が私たちにも迫ってき

ます。

そのように気持ちがあふさいでいる中、

ちよつとしたことがほんの少しの光を届けてくれます。信号機がついていない道路で、運転者はお互いに譲り合い、歩行者を優先し、待ってくれる人には礼を表し、いつもよりゆつたりと流れる時間に合わせて運転をします。普段あまり行き来のない人たちから安否を問う便りや電話が届きます。店舗が営業を停止している中、畑の野菜を届けてくださる方、忘れられて賞味期限の切れていた食品を美味しく食べられたこと、

停電や断水が解消して久しぶりに温かいシャワーを浴びたときの気持ち良さ…。一つひとつの小さなことが

いつもとは違う、ささやかでも温かい喜びをもたらしてくれるのです。こんな単純な、でもこんなに大事なことを、すっかり忘れていた…。そう思う思いに至ります。

被災者の方たちが、まわりから差し伸べられる手に「ありがたい…」と笑顔で、また涙を流しながら話しておられる映像は、私たちに勇気を与え、人は信じるに足るものという思いを強くしてくれます。破壊されたところに、足りないところ、痛むところに、どんな底に、「愛」というものは、やはりきれいなことではなく、何よりも私たちの命を支えていることを感じるのです。

主教 ナタナエル 植松 誠

十 教区逝去教役者
記念聖餐式

二月二日(水)
午前二時三十分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

- 司祭 J・ウィリアムス 一九二〇年一月一日 伝道師 渡 辺 誠 一九二二年一月一九日
- 主教 W・アンデレス 一九三二年一月一日 主教 G・J・ウォルシュ 一九七二年一月一九日
- 主教 前 川 真二郎 一九五三年一月一日 司祭 雨 宮 大 朔 二〇一五年一月一九日
- 伝道師 A・M・エバンス 一九五一年一月二日 執事 富 田 恒 躬 一九四〇年一月二日
- 執事 町 田 巖 一九九七年一月三日 司祭 鈴 木 善 四郎 一九一八年一月二六日
- 執事 中 西 弘 一九八九年一月七日 伝道師 A・M・タブソン 一九四〇年一月二六日
- 伝道師 鈴 木 雅 彦 一九二三年一月二二日

・新札幌聖ニコラス教会等、修繕を有する教区関係建物被害について調査を進めることとした。
・対外的に呼びかけての募金は行わないこととした。
四、札幌聖ミカエル国際青年寮の閉鎖に伴う手続きの件
・二〇一九年三月で閉鎖予定の同青年寮の閉鎖について検討した。
五、稚内聖公会、厚岸聖オーガスチン教会、旧帯広双葉幼

稚園の件
・現況報告を聞き今後について協議した。継続審議。
六、その他
・リベリナ教区と教区間の関係について
・熊坂司祭来道時に協議を行い、教区対教区としての関係を解消する一方、これまでの交流を通して生まれた個別の関係を、今後とも歓迎し祝福し合うこととした。

伝道師 松 本 ジョウ

一九七八年一月一四日

伝道師 ルーシー・ペイン

一九三二年一月一七日

伝道師 西 田 喜 一

一九六一年一月一八日

伝道師 M・ブラウンロー

一九二二年一月一九日

伝道師 渡 辺 誠

一九四八年一月一九日

主 教 G・J・ウォルシュ

一九七二年一月一九日

司祭 雨 宮 大 朔

二〇一五年一月一九日

執事 富 田 恒 躬

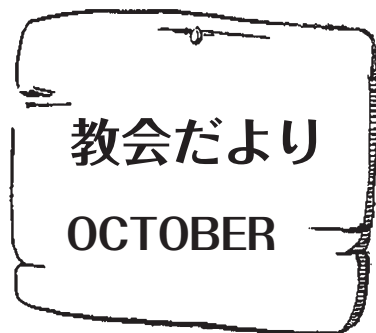
一九四〇年一月二日

司祭 鈴 木 善 四郎

一九一八年一月二六日

伝道師 A・M・タブソン

一九四〇年一月二六日



▽岩見沢聖十字教会

九月六日、平成三〇年北海道胆振東部地震発生。教会、幼稚園、信徒に被害は無し。園保護者の自衛官、被災地へ赴く。隊員の働きを祈る。一日も早い復旧・復興を願う。

二〇日、屋内施設で幼稚園運動会。東京オリンピックを意識してか皆大張り切り。将来の五輪選手誕生を期待。日の丸が上がる事を夢見る。

三〇日、横山明光司祭司式による聖餐式。今年二回目のご奉仕。お互い近況を報告し合い、主に在る交わりを深める。愛餐会の用意は姉妹方による愛のご奉仕。感謝で一杯。

▽旭川聖マルコ教会

九月四日、教区婦人会「道

北分区婦人の集い」開催、分区外を含めて三二名が参加。三浦綾子記念文学館の森下辰衛氏のお話に感謝。

九日、第六九回頌栄保育園運動会開催、地震の影響で時間短縮されましたがみんな元気に頑張りました。同日、佐藤貢、千代子ご夫妻が洗礼の恵みに預かりました。三〇日、恒例のマルコバザー、奉仕と交わりの楽しい一日を過ごしました。

追伸 八月二七日ザカリア安彦之夫さんが九二歳で逝去されました。み国の平安を祈ります。

▽新冠聖ララシス教会

先ずは何と言つても、「胆振東部地震」について触れなければなりません。固定電話とドコモ携帯が繋がらない中、一人暮らしの奥田貞子さんからメールが。「こちらは大丈夫です」。一安心した牧師は翌・一二日に新冠へ。信号ストップと日高道不通の中、国道を走りました。各信

徒宅は被害なし！教会は、と言うと燭台が一本倒れたのみで、しかもローソクは折れていません。一安心でした。各方面からお見舞い！感謝です。

二三日は後期の主教巡回日。奥様共々の来会感謝。

▽帯広聖公会

六日の地震に始まり忙しい一カ月でした。一六日は道東分区婦人の集いが当教会と旧双葉幼稚園を会場に行われました。木末兄の周到に準備された資料と明快なお話で盛会でした。一三日は長寿を

お祝いする会に七名の先輩をお招きして会食と懇談の時を持ちました。皆さんはボランティアや俳句、ペン習字等にお励みになり、愛唱聖歌を独唱する元気一杯の方々でした。三〇日は秋季墓地礼拝を致しました。毎週金曜日には黙想の会をもつて祈りの一時を大事にしています。

▽苫小牧聖ルカ教会

六日未明、大きな揺れで目が覚めました。牧師館は無事でしたが、礼拝堂はモルタルの一部が剥がれる被害。建てかえた幼稚園の園舎はまった

く被害がありません。もし建てかえていなかったらと思うとぞっとします。停電の中ですが認定こども園として二・三人園児を受け入れました。

震源地の厚真町、隣接のむかわ町、安平町に住む信徒は無事でしたが、自宅にいられず避難所へ避難しています。一九日から聖公会ボランティア

センターとして、全国からボランティアを受け入れ、主としてむかわ町で活動しました。

三〇日には予定通り聖ルカバザーが行われ、台風が迫る中でしたが、盛会の中に終えました。教区内でボランティアに参加する人がほとんどおらず、残念です。

▽紋別聖マリヤ教会

九月に入り天気の良い暖かい日が多く過ごしやすい毎日でしたが、北海道胆振東部地震が発生して紋別も約二日間停電がありました。教会では大塚京子姉が教会に加わることにになりました。一人でも多くと思っていましたので嬉しい限りです。主に感謝。幼稚

園では、二〇日に流水公園内のやすらぎ体験農園で育てた野菜の収穫が行われました。天候不順で変形した物でも歓声があがったそうです。寒くなりましたがお体に気を付けてお過ごし下さい。

▽有珠聖公会

九月二三日、聖餐式。礼拝後、今年で三回目となるバザーに向け、総勢で準備。重い椅子を動かしブルーシートを引き詰め売り場が完成。翌日も早朝から午後のオーブンに備えました。朝から小雨模様でしたが有珠の近隣から伊達や室蘭からも、家族連れて多くのお客さんを迎えました。札幌から向井哲子さんが手作りスイーツを手に応援にお出で下さり、今田邦子さんが提供下さった手作りスイーツと合わせ充実した喫茶コーナーとなりました。少ない教

▽留萌キリスト教会

感の内に終了できました。 四日、婦人会ブロッコ集会が旭川で行われ、四名出席。三浦綾子の文学が、今もなお

本物の希望を示し続けている事を、森下辰衛氏より聴く。

一四日、手芸の会「さくら」二学期開始。地震と停電後の無事の再会を喜び、お茶飲み話に笑い声が響く。作品は、千代紙でコースターを作成中。

二八日、ヨセフ寺岡保さん七四歳一ヶ月で天に召される。二人の娘さんに愛されての旅立ちでした。故人の魂の平安と、ご遺族の慰めをお祈りいたします。

▽平取聖公会

実りの秋の日高管内の作況はどの作物も悪い事を、先月号でお伝えしました。追打ちを掛けるように、九月六日に北海道胆振東部地震が発生しました。震源地厚真町からごく近い平取町は震度六弱の揺れに襲われました。教会や信徒宅は物の落下や墓地墓石の倒壊など様々な被害がありました。

地震で北海道全体で停電が発生しましたが、平取町の停電は長く続きました。酪農家の牛乳廃棄や野菜農家のトマト

トやキュウリに大きな被害が発生しました。

▽札幌キリスト教会

九月二日、七五才以上の長寿の方々に礼拝にて祝福しました。愛餐会後には長寿会が行われました。

九月六日(木)午前三時八分胆振東部地震の件では、停電と断水に見舞われましたが、幸い当教会の建物に目立った被害は無く、教会の方々も無事を喜び合いました。

一五日、オーストラリア聖公会リベリナ教区の熊坂司祭が来札、手巻き寿司で歓迎会、オーストラリアを思い出し、子ども達と再会を喜び合いました。一六日の主日の礼拝と英語礼拝でも説教のご奉仕をいただき、感謝でありました。

一七日、バザー当日清々しくさわやかなお天気に、私達の表情もニコニコでした。又沢山のお客様を迎えられてチャリティバザーを終える事が出来ました。

▽小樽聖公会

胆振東部地震による教会と牧師館への被害は幸いにもあ

りませんでした。信徒も皆無事でしたが、信徒宅のマンションでは停電による断水とエレベーターが使えないことで生活にかなりの不便がありました。教会の停電復旧は七日(金)午後一〇時頃。この頃までに各信徒宅も停電から復旧しました。今後、地震などの災害時に信徒等が教会に集まることのできるための備えなどについて検討をしていく必要があると感じています。

▽新札幌聖ニコラス教会

二日、主教巡回の主日礼拝。愛餐会にて信徒の近況を確認。六日の地震で木造会館側に被害。殊に二階牧師館床に出来た傾斜は生活の困難を生じ余震の心配もあり上平ご夫妻は近隣の信徒宅に緊急避難。九日、礼拝後に教会委員が被災箇所を点検し今後の教会運営ならびに修繕の方策を検討。二〇日に業者下見。

二八日、ルツ一井光子姉逝去。八七年の地上でのご生涯でした。葬儀は永谷司祭司式のもと教会で執り行われました。

二九日まで牧師館床下や重症部分の修復工事を予定。一六日、聖餐式に二四名出席。厨房使用が見合わせのなか礼拝堂と集会室で集いを持つ。二三日、み言葉の礼拝。ホール天井は仮補修の状態。修復工事の無事終了を期待する。

九月に入り台風二一号、胆振東部地震と続けて災害に見舞われるが室蘭は大きな被害なくただ牧師館の窓二ヶ所破損する。一番困った事は停電で高層住宅に住んでいる方は断水になり大変との事、電気の有難さを身をもって感じた次第です。東京の斉藤篤さんよりお見舞いを頂き何時も心寄せて下さることにただ感謝。又、釧路聖パウロ教会よりお見舞いのお葉書を頂きました。一六日、吉野司祭来会、聖餐に預かり昼食後牧師館の今後の事につき話し合いをする。藤井兄教会周辺の草取り、二日間行って下さり周りはいきれいになりました。腰痛をかかえながら頑張って下さる姿に敬意を表します。二三日吉

▽室蘭聖マタイ教会

野司祭来会。他教会の上野さん山岸さんが来られ共に聖餐に預かりました。

六日未明の大地震で、札幌東区は震度六弱の揺れ。幸い教会、幼稚園、国際青年寮に被害はありませんでした。一六日、敬老、長寿祝福の祈り・子どもとともに捧げる礼拝を行う。七五歳以上の方々四五名を覚えて祝福を祈りました。この日、約一〇ヶ月の療養を経た大友司祭の説教をいただき感謝。三〇日、ミカエルバザー開催、今年も幼稚園の保護者の皆さんのご協力を得て大きな実りをいただきました。懸念された台風も避けて通ってくれた様子。来年三月の国際青年寮閉寮後の教会の宣教について、鋭意検討中です。

▽今金インマ又エル教会

私たちの小さな教会の鐘楼は、台所の片隅にあります。築五〇年のガラリ戸から吹き込んでくる風と雨のため、台所の天井には、大きなしみが広がっています。藤井司祭は

二九日まで牧師館床下や重症部分の修復工事を予定。一六日、聖餐式に二四名出席。厨房使用が見合わせのなか礼拝堂と集会室で集いを持つ。二三日、み言葉の礼拝。ホール天井は仮補修の状態。修復工事の無事終了を期待する。

いつもそこから礼拝の始まりを知らせてくださいます。春からひろくんというお弟子さんでもできました。この夏は外階段に続き、ガラリ戸と天井が修繕されました。そこへ立て続けにやってきた台風、そして地震。北海道中が光を失いました。九月は九日、三〇日、お陰様で雨もりもなく礼拝を守ることができました。主に感謝。

▽函館聖ヨハネ教会

九月三日、三ヶ月に及ぶ聖堂修復工事が終わり、待ち焦がれた引き渡しの日となった。ハレルヤ！

元和室もリニューアル、室名【こひつじ】とし、今後は日曜学校礼拝もここで行う。わずか三日後に震度五弱の地震発生。停電は一日半も続いたが教会の被害はなし。

二三日は大バザー。連日雨が続く中、奇跡のような晴天。多くの市民、観光客の笑顔でにぎわう。ますます愛される教会となりますように。

三〇日、植松主教ご巡錫。真っ白な聖堂を背に皆で記念

撮影。宣教への希望に我らが心は躍る。

▽稚内聖公会

九月の稚内の風土記はえぞ鹿が市中を闊歩、民家の野菜を食べている「アイヌ・モシリ」アイヌの大地の原風景で活写される。

二四日午後一時、今日も鐘の音で礼拝がはじまった。この鐘は四六年昔札幌キリスト教会からの贈物。ドクター上村友也氏に運んでいただいたのでした。

この日の礼拝には、うれしいことに歩行もかるやかに回復された本原満栄さん、この一〇月で京都へ上洛される與賀田敏子さん、札幌聖ミカエル教会の富樫多美子さん、甲斐司祭夫妻でした。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

台風・地震と自然災害に見舞われた九月の北海道。改めて日頃からの備えを学び直す。一六日帯広聖公会で「道東分區婦人の集い」が開催され、釧路からも七名が前田車で参加する。祈り、賛美、感

謝と交わり、心と体喜びで満たされる。周到な準備、適切な進行に次回担当の釧路は学ぶ。頌栄保育園に防犯カメラが設置され、安心・安全・一歩前進。

現在、信徒数名が入院中、早期の回復を切に祈る。サンマが獲れ始め、厚岸かき祭りも間近か。

みんな元気になあれ!!

▽北見聖ヤコブ教会

夜中停電に気づき、朝起きて北海道胆振東部地震を知り祈りました。司祭は網走で朝を迎えたのですが、北見の皆様と連絡を取ることが出来ず、ガソリンスタンドがやっていないため車で行くことが出来ず困りました。夕方高橋さんご夫妻に会うことが出来、皆様の無事も知り安心してました。

二〇日(木)より二五日(火)までNHKギャラリーで岡嘉彦さん瑛子さんご夫妻の個展『水彩二人展』が開かれ素晴らしいひとときをすごさせていただきました。

冬はもうすぐそこですね。

▽網走聖ヘテロ教会

久しぶりにストーブを付けました。「あつたかいね」そんな季節になりました。教会の主日礼拝、なつかしい方や久し振りに来た方と共に神様を賛美出来ます事を嬉しく思います。一六日道東婦人の集いに七名出席。日帰りの車内はおしゃべりと睡眠の時、帯広での豊かな恵みに感謝します。

バザーでは和田さん手作りのジャムやたけのこを出品、買って下さり有難うございました。毎月の婦人会、ペテロの会、勉強会も小さな集まりの中にも神様の導きと平安な集会となっております。

▽深川聖三一教会

九月四日道北ブロック婦人会、旭川会場へ五名出席。三浦文学の都の風をあびる。一日保育園職員会議、運動会で一枚むけた子どものはつらつとした心と魂に祝福豊か。一八日道北教役者会が甲斐司祭宅で開催。木村司祭の

おすすめあり、解散後広谷・甲斐司祭研修二回目。二二日

甲斐司祭、教会友人北見の岡嘉彦夫妻の個展へ参る。二四日甲斐司祭稚内聖公会へ出向、熊の出没するサロベツ原野の開拓地の一角に住む與賀田敏子さんを引き取り送り届け、ご無事を祈る。三〇日旭川ギデオン協会の武石博文氏ご来会、証しと会の宣伝を一同拝聴す。

▽聖マーガレット教会

九月九日、信仰の先輩を敬い、子どもを祝福する会を礼拝において祝福し、礼拝後に祝会を行いました。九月二四日、一〇時より教会バザー。五〇年近く雨での中止は一度もなく、今年九時頃雨がパラパラ池田先生雨男になるかなりませんでした。今年も八月過ぎから少しずつ準備をはじめ、毎年の事ですが婦人の働きに敬服します。今年初めてのことでありますが、やきとり用の串さし作業で失敗作が少々出ました。教会にもその様な事が…でも教会に有る兄弟姉妹として共にだいじにしたい、すべてのおおさげ致します。